

大学等名：岐阜工業高等専門学校

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・テーマⅡ（学修成果の可視化）複合型

文部科学省APにより進める岐阜高専のICT活用教育改革
一教育資源を可視化・資産化し、守り・運用し・継続的に発展させる一

Ⅰ：ALを支援するICT活用教育の全教育課程での推進
Ⅱ：実践技術単位による教育課程外を含めた学修成果の可視化

① ICT活用教育の推進

全教職員参加型のALを活用した教育改革を学生とともに推進しています

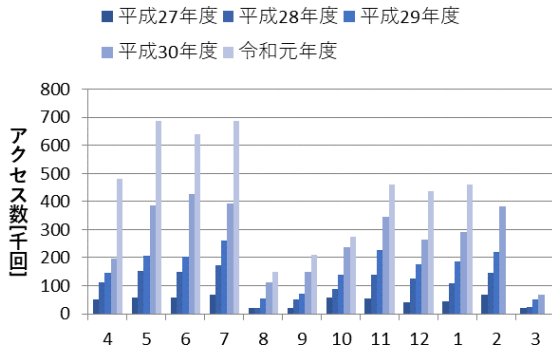


図-1 LMSへの月別アクセス数の推移

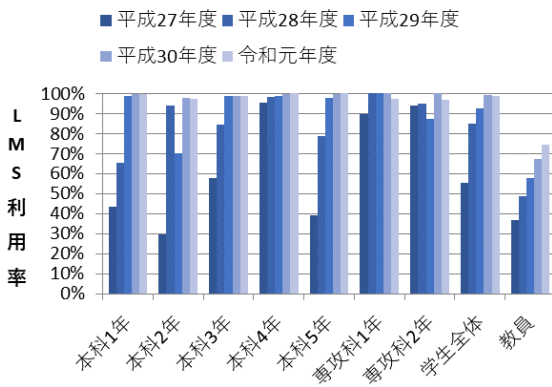


図-2 学生活用100%・教員活用3/4

② 学修成果の可視化

教育課程と非教育課程の全高専教育の学修成果を可視化しています

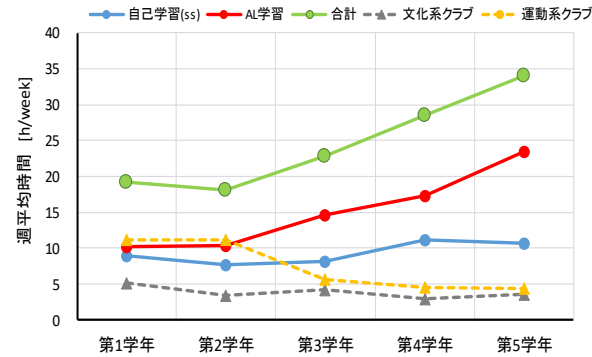


図-3 教室外学修時間の学年別推移(R1)

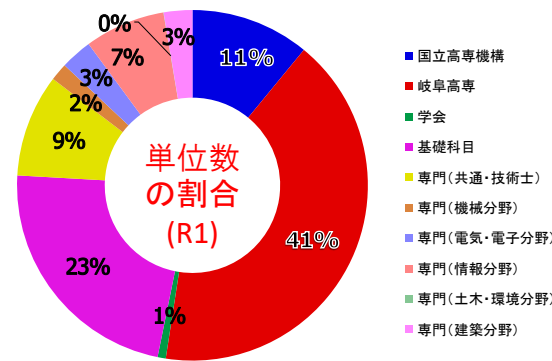


図-4 実践技術単位による学修成果の可視化

・図-1と図-2により AP期間の6年間でICT活用教育が着実に加速されていることがわかります。能動的なALを活用した授業による教育改革と学修支援環境の資産化が進んできました。

・令和元年度には、学生による学修支援環境の利用はほぼ100%と成りました。

・教員による学修支援環境の活用は、令和2年2月の75%が、令和2年度の開始とともに100%を達成。

・図-3の各学年の教室外学修時間の平均値から、全学生教室外学修時間平均 **24.5 [h/week]** 達成！

・学生の総実践技術ポイント数は平成29年度の5250ポイントから、平成30年度には6817ポイントへ、そして最終年度の令和元年度には**7714ポイントへと着実に増加！**

・図-4の実践技術単位の分野別分類により、AP事業終了時点での本校高専教育全体の学修成果を可視化すると、

半分の52%の単位は高専機構内での「学修成果の可視化」に関するポイント

半分の48%の単位は高専機構外での「学修成果の可視化」に関するポイント

内部評価と外部評価がバランスした学修成果の可視化を達成。

APIによる進展	H26年度 (実績値)	R1年度 (目標値)	R1年度 (実績値)
AL受講学生割合	99.5%	100%	100%
AL実施科目割合	27.3%	100%	100%
実践技術単位拡張割合	20.0%	100%	100%
授業外学修時間	8時間	22時間	24時間

本校APでは、ICT活用により**教育資源を資産化**し、守り・活用し・育てる環境を活用した教育改革を実践していきます。